

「回収率」と「三年生」

昨日の生徒総会で、アルミ缶回収の回収率を全校に示すことが提案されました。全クラスの回収率が一挙に明らかになるわけで、それによって今後の回収の刺激にしたいというのがねらいのようです。

それぞれのクラスの回収率を出すことは、刺激になる可能性がある一方で、受け止め方によっては「これでは強制ではないのか」という思いにつながる可能性もあることを知っておくべきです。大切なのは、回収率を出すことではなくて、回収率でどのようにボランティアの心を刺激して、アルミ缶回収を活性化させるかです。「ボランティア」という言葉の意味は、「自発的に」であることを、決して忘れてはなりません。

もう一つ忘れてはならないことがあります。それは、回収率を出すことで、北中のリーダーである三年生全体の真価が問われるということです。

私はこれまでの回収率を知りません。したがって、これから書くことが「余計な心配だった」となる可能性があります。反対に「余計な心配」にならない可能性もあります。実際に回収率が出されてはつきりします。

これまでの二年間のアルミ缶回収で、その意義や価値についてわかつているはずの立場であること。同じ学年の仲間である三年生（生徒会執行部）が中心となってアルミ缶回収を推進していること。そして、名実共に北中のリーダーであり、後輩たちから注目されている立場であること。これらのことから、アルミ缶回収において、もっとも大きな実績を上げるべきなのは三年生である、と私は考えています。

回収率を出すことで、それがはつきりします。「やはり三年生はすごい！回収率にも目を見張るものがある」という声が生まれるのでしょうか。それとも、それとは真逆の評価が生まれるのでしょうか。回収率を出すということは、三年生の評価に直結しているということを忘れてはなりません。

まもなく十一月に入ります。来年の三月五日が卒業式です。で、残された時間は、実質あと四ヶ月。中体連中止、体育大会の中止、合唱発表会中止と、最上級生としての勇姿を見せる機会は悉（ことごと）くなくなってしまう。

だからこそ、日常生活が大切です。日常生活で、後輩たちに三年生の「圧倒的な姿」を見せてほしい。そして、四ヶ月後、胸をはって卒業してほしい。私はそう願っています。回収率を出すということは、三年生にとって緊張すべきことだと私は思います。緊張していますか。（十月二十八日記）